

R 元年 12 月 8 日(日)

テーマ：誤嚥性肺炎予防のための摂食嚥下のテクニック

講師：杉山智子先生 済生会有田病院

摂食・嚥下障害看護認定看護師

ファシリテーター：橋本真由美先生 和歌山労災病院

亀井里奈先生 紀州リハビリケア訪問看護ステーション

中家まゆみ先生 海南医療センター

宮田栄里子先生 紀南病院

速水久美先生 那智勝浦町立病院

森本好美先生 ひだか病院

場所：看護研修センター

参加者：56名

午前中の講義では、誤嚥の原因と摂食嚥下のメカニズムなどを学習する。続いて隣の方とエンゲリードを使って、食事介助の方法を学習。

午後からは、3ブースに分かれて、演習を行う。

★1つ目のブースは、ビデオ。講師とファシリテーターが自ら作成したビデオで、説明をしてくれる。



★2つ目のブースは、車いすのポジショニング。安全な体位を学習。



★3つ目のブースでは、ベッド上のポジショニング。



3つのブースを全員が体験。

どのブースでも、皆さん熱心に演習していた。

今ごろは、自分の職場で伝達講習されていることでしょう!!

R 元年 12 月 10 日(火)

テーマ : 日常生活援助に活かすリハビリのコツ

講師 : 平和晃先生 白浜はまゆう病院
理学療法士

場所 : 看護研修センター

参加者 : 53 名

午前中は講義でベッド周囲の環境調整やフレイル・ロコモティブシンドロームなどを学習。
午後から午前中の講義をもとに実技演習。

実技演習では、ベッド上の移動介助を行う。
寝返り・起き上がり・立ち上がり・車椅子移乗を患者役と介助者役
の両方を体験。



寝返り介助は、肩と膝を
支えて実施。

講師がデモンストレーショ
ンを行ってくれる。

受講生は患者役と介助者役
をすることで、安全に安楽に
できる方法を自分自身で体験
することができた。



R 元年 12 月 14 日(土)

テーマ : エンド・オブ・ライフケアを学ぶ

講師 : 越本世津先生 紀南病院

緩和ケア認定看護師

場所 : 看護研修センター

参加者 : 69 名

「エンド・オブ・ライフケアとは」から「家族ケア」、「多職種協働」まで詳しく説明してくれた。

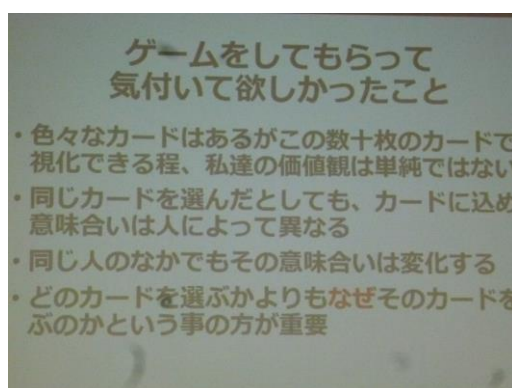
受講生がメモを取らずに講義を聞けるように、先生が資料を非常に詳しく作成してくれた。



午後からは、「もしバナゲーム」



初めてゲームをする人も多く、先生が巡回しながら説明してくれる



終了後、受講生はいろいろな気づきがあり、先生の意図が十分に伝わっていた。

R 元年 12 月 21 日(土) 9:30~12:30

テーマ : 高齢者に対する虐待の予防と対応
講師 : 水主千鶴子先生 修文大学看護学部
教授

場所 : 看護研修センター

参加者 : 65 名

講義の中に、先生のいろいろな経験を交えてくれたので、わかりやすく理解しやすかった。



講義風景

事例として、先生の老人保健施設での経験やご両親のことを話してくれてわかりやすかった。

研修では珍しく、受講生が自ら挙手をして質問した。

全員で質問の回答を共有できました。

質問してくれた方ありがとうございます。

先生の講義で「認知症の人こそ看護師をよく見ている」という言葉が印象的だった。

R 元年 12 月 21 日(土) 13 : 30~16 : 30

テーマ : 医療現場での暴力対策

講師 : 三木明子先生 関西医科大学看護学部・看護学研究科
教授

場所 : 看護研修センター

参加者 : 65 名

講義だけでなく、「暴力に対する価値基準」を事例の中から考えたり、隣の人と話合い、「この暴力は何罪になるのか」などを考えたりした。



前後左右の人と患者から暴力を受けた看護師・師長はじめその周りの人の対応を事例にして、どの順番で悪いのか？を考える。暴力行為者よりも暴力を受けた看護師が悪い。その現場を見ていただけの先輩が悪い。など様々な順番があった。しかし、暴力行為を行った患者が一番悪いと認識することが重要と説明してくれる。



暴言に対して 1 言で対応する「言葉」をグループで実演する。本番さながらの迫力でした。

先生が実施した実態調査では、27%の施設で警察 OB の方を警備員として雇用しているそうです。
暴力に関する問題は、組織で対応しないとイケない問題です。